

会 議 要 録

名 称	第1回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日 時	令和元年6月27日(木) 午後1時30分から午後3時15分まで
場 所	豊橋市役所 西館4階 災害対策本部室
出席委員	稲田充男委員、山田剛史委員、川本恭久委員、長崎正敏委員、 稲垣ローザ委員、古地英明委員、夏目美鈴委員、鈴木真理子委員、 鈴木幸宏委員、長坂英樹委員
欠席委員	なし
環 境 部 職 員	環境部長 小木曾充彦、環境政策課長 小林正彦、廃棄物対策課長 佐藤実、 環境保全課長 牧野大公、温暖化対策推進室長 三浦正人、 収集業務課長 若子尚弘、資源化センター長 提髪宏彰、 施設建設室長 前田隆男、埋立処理課長 田邊章裕 環境政策課 課長補佐 井上知之、資源循環グループ主査 三木寅男、担当 森敬広
内 容	1. 委員の委嘱 2. 検討委員会の趣旨説明、委員の紹介 3. 委員長・副委員長の選出 4. 議題 5. その他
議題の概要	議題1 豊橋市廃棄物総合計画について 議題2 豊橋市におけるごみ処理の現状と今後の課題について

第1回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日 時：令和元年6月27日（木） 13：30～15：15

場 所：豊橋市役所 西館4階 災害対策本部室

司会：環境政策課長

○ あいさつ（環境部長）

《委員長・副委員長の選出》

○ 委員長の互選（委員長に稲田委員を選任）

○ 副委員長の互選（副委員長に山田委員を選任）

《議 事》

事務局：議題1「豊橋市廃棄物総合計画」について、説明（環境政策課長補佐）。

委 員：ごみ排出量の目標値が709gとあるが、現在の状況はどうか。

事務局：平成30年度実績において654gで、目標を達成している。

委 員：リサイクル率について、目標を28%としている。これは様々な施策に取り組むことで28%まで上昇することを示していると解釈する。一方で、現状推移を17%としているが、現状推移の17%は何を示しているのか。

事務局：平成26年度時点の状況のまま推移した場合の値を示している。

委員：東京ではごみを減らすために生ごみの水切りに積極的に取り組んでいるが、生ごみの水切りに対する市の認識はどうか。

事務局：本市も市民への啓発活動を通じた生ごみの水切りの推進に取り組んできた。また、電動式生ごみ処理機の貸し出しなどを通じた、各家庭での生ごみ堆肥化の推進に取り組むなど、生ごみの減量に取り組んできた。

委員：バイオマス利活用センターは順調に稼働しているか。

事務局：順調に稼働している。

委員：生ごみ分別により焼却するごみの水分が減り、熱量が上がったことで施設が高温となり、それに耐えきれずに壊れたという話もある。市の認識はどうか。

事務局：生ごみの分別収集開始後の焼却するごみの熱量は、施設の設計の範囲内であり、生ごみの分別と今回の故障に因果関係は無いと考えている。

事務局：議題2「豊橋市におけるごみ処理の現状と今後の課題」について、説明（環境政策課長補佐）。

委員：ごみを処理するために50億円程度の経費が必要となるという解釈で良いか。また、経費が上がっている点に対する市の認識はどうか。

次に、雑がみのリサイクルについて、お菓子の箱のようなものは簡単だが、個人情報載っているものはシュレッダー後にもやすごみとせざるを得ない。個人情報載っているものをどのようにリサイクルするかという点に議論の余地があると認識している。

最後に、豊橋市と田原市とのごみの広域処理が豊橋市の家庭ごみ有料化に繋がるのではないかと懸念がある。なぜ広域処理するのか。また、家庭ごみの有料化は様々な施策に取り組んだうえでの、最後の手段であるという認識を持って頂きたい。

事務局：経費については、焼却処理やバイオマス処理、収集運搬、啓発活動などごみに関する全てを合算した。また、経費の上昇については現施設の老朽化や新たなごみ処理施設の整備の進捗、生ごみの分別収集開始などによる。

事務局：雑がみについては、お菓子の箱のようなものがリサイクルできるという事実そのものの認知度が低いことから、雑がみのリサイクルを広め、多くの方々が身近に取り組んで頂くためにはどうすれば良いかを検討すべき課題と考えている。なお、個人情報付きのものについては、塗りつぶしてリサイクルする方法もあるが、個人情報への配慮を優先し、シュレッダー後にもやすごみに出すこともやむを得ないと考えている。

事務局：ごみの広域処理はごみ処理経費を削減するための取り組みであり、豊橋市と田原市の双方に利点がある。広域処理だから、田原市に合わせて豊橋市も家庭ごみを有料化するという考えはない。

事務局：家庭ごみの有料化はごみの減量施策の1つであり、市民への負担が出来るだけ少ない形でごみの減量に取り組んでいきたいと考えている。

委員：もやすごみに含まれる古紙などの資源の何%がリサイクル出来れば目標である28%に到達するのか。また、拠点回収の古紙について、平成30年度実績値と令和2年度の目標値との間に大きな差がある。拠点回収の古紙の急増をどのように想定しているのか。

事務局：もやすごみに含まれる生ごみを16%から14%に、雑がみを15%から13%に、プラマークごみを3%から2.5%とすることで28%を達成できると考えている。

事務局：拠点回収の古紙の急増はもやすごみに含まれる古紙が資源として分けられ、拠点回収に持込まれると想定している。

委員：ごみの処理は11の分類に細分化している。それに対し、リサイクル率は様々なものを一括にまとめている。目標達成を目指す取り組みを検討するためには一括にまとめた合計ではなく、細分化して個々に着目する必要がある。それを踏まえたうえで、今後は細分化したデータの提供をお願いしたい。

事務局：承知した。

委員：田原市の家庭ごみ有料化に対する市民の反応など、状況はどうか。

事務局：特に大きな変化は見られないと聞いている。

委員：家庭ごみの有料化による不法投棄の増加に対する市の認識はどうか。

事務局：愛知県内の実施状況について調査や検討が必要な事項と考えている。

委員：ペットボトルを学校で回収するなど、学校教育と連携した取り組みに対する市の認識はどうか。

事務局：学校教育との連携は非常に大切と認識している。

委員：未就学児への環境教育に取り組んでいるという新聞記事を見た。素晴らしい取り組みであり、積極的に宣伝するべきと考える。

事務局：幼児環境教育やまちづくり出前講座として市内の保育園、幼稚園、こども園、小学校での環境教育に継続的に取り組んでいく。

○ その他（事務局からの説明）

- ・ ごみ処理に関する豊橋市の取り組み（資料4）
- ・ 今後の予定（資料5）